



第 1245 回例会報告

会長挨拶

会長 三村昌暉

職業奉仕の課題

本日は職業奉仕月間の最後の例会であります。

いささか旧聞になりますが、2009年10月号のロータリーの友に当時のRI会長ジョン・ケニー氏の「職業奉仕を行動の真正面に」という一文が掲載されておりました。それは“ロータリーほど歴史が古く、成功している物はない。その理由の一つが職業奉仕である。四大奉仕(当時)の中で、とかく忘れがちな職業奉仕を、今年の強調事項に置きたい”というものでした。RI会長ジョン・ケニー氏は、職業奉仕を、四大奉仕の中でとかく忘れがちな物と述べているのです。職業奉仕こそロータリアンにとって、もっとも大切な奉仕理念と考える私たちにとって、違和感を覚える一文でありました。

RIでは、何年かおきにロータリーを紹介する為のパンフレットを発行しています。以前のパンフレットの冒頭には、ロータリーとは何かについて「ロータリーは職業奉仕の団体である」と記されておりました。1999年発行のパンフレットでは「ロータリーは国際奉仕の団体である」と変わりました。大きな変化といわざるを得ません。RIはいろんな角度から、職業奉仕をなし崩しにかかり、職業奉仕を忘れ去って、ボランティア活動のみに奔走しているように見えます。それが上記のRI会長の一文になったと見るのはうがった見方でしょうか。

職業奉仕月間の最初の例会で、「職業奉仕に関する声明」と「ロータリアンの職業宣言」をお配りいたしました。「ロータリアンの職業宣言」の第2条に「職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道德基準に対し、名実ともに忠実であれ」。又、第3条には「職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を推進すべく全力を尽くせ」と記されております。

ロータリーの奉仕は「思いやりの心をもって他人のために尽くすこと」とか「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリー哲学の実践にあります。

【10月は職業奉仕月間】

平成 23 年 10 月 27 日(木) 晴れ

この職業奉仕の理念、奉仕の哲学をなくすということは、ロータリー・クラブの存在が否定されたことにもなります。ロータリーが他の奉仕団体と本質的に違う点は、職業奉仕の概念を持っていることです。我々は、ロータリー・クラブをあくまで職業奉仕の概念を持つ団体として守り育て、職業奉仕は個人奉仕であるという原則は貫いていくべきと考えます。職業奉仕月間によせて述べさせていただきます。

◇幹事報告◇

【報告事項】

①本日、第5回理事会が行われました。

11月の例会日程

11/03 休会

/10 米山奨学生「イ・ソジョン」さんの卓話

[国際奉仕]

/17 長幅政博下諏訪町体育協会専務理事卓話

[新世代奉仕]

/24 会員増強について

[会員増強特別]

12/01 「クラブが手本を示す奉仕活動」

[社会奉仕]

②次年度役員及び理事指名委員会の設置について、

■ニコニコBOX

20名	25,000円
累計	461,000円
目標額	130万円
達成率	35.4%

■今週のこトば

いよいよ明日第57回長野県更生保護大会です。今日から塩尻へ行きます。かげながら応援してください。

小林聖仁

■出席報告

会員数	33名
出席対象	33名
出席者数	23名
出席率	69.6%
前回修正	81.8%

■ 次回のプログラム

11月17日

下諏訪体育協会専務理事

長幅政博氏卓話

新世代奉仕委員会



三村会長提案とおり8名の委員を選出し、理事会承認をいただきました。

③諏訪大社参拝・首長さんの新春卓話を例年と同行う予定です。(詳細は後報)

④諏訪ローターアクトクラブによる「アターミティング」には高林新世代奉仕委員長が出席します。

⑤2011年11月のローターレートは78円です。

【受領文書】

ウィークリー=諏訪 RC

第1245回例会 会員卓話例会

社会奉仕委員会 小林強委員長

ロータリーも時々立ち止まり、原点を振り返る事をしないと、歴史あるクラブでも目的を見失い、それに気付かないまま、惨めなクラブとなっております。

ロータリーでは「奉仕の理想」について、いかなる場所においてもロータリー・クラブは一つの基本理念「奉仕の理想」を持っているそれは他人のことを思いやり、他人のために尽くすことである。

二つの奉仕原則、**Service Above Self** は人道的奉仕活動のモットー

- 奉仕の理念を団体で学ぶこと
- 奉仕の実践を団体で示すこと
- 奉仕活動の実践を個人で行うこと
- ロータリーの奉仕理念と実践を一般の人たちに受け入れてもらうこと

地区大会でRI会長代理も話しておりましたが、決議23-34の4項に、奉仕するものは行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。

He profits most who serves best は職業奉仕のモットー最もよく奉仕する者 最も多く報いられる。小さな炎には小さな熱、大きな炎には大きな熱があります。ささやかな奉仕はささやかな報酬の価値があり、大きな奉仕は大きな報酬の価値があります。少ない報酬を嘆くのではなく、大きく奉仕をして大きな報酬を得てください。ロータリー・クラブはさまざまな社会奉仕活動を開発し、会員に奉仕の多大なる機会を与えてきた。

当クラブはその様な機会を与えてきたとは考え難く、その様に在るべきかの考えを聞いたのが前回の例会でした。

A. 会員や一般の人たちに行動を促す事業を行うと答え人が31%、B. クラブの事業はクラブの都合で行えば良いが21%、C. A+Bで良いとの答えが46%でした。

A+Bと云う問いかけはしませんでしたでしたが最も多く、こ

の結果をどの様に分析すべきかであります。

クラブの都合だけで行う事業では拙く、会員や一般の人たちが共に行動を起こせる事業も行う必要がある。しかし、全てその様な事業が出来るか不安があり、クラブの都合や委員会の意向でも仕方無いと云う意見ではないかと考えます。この結果は今後の計画に少なからず影響を与えるものと思います。

社会奉仕委員会は前期、長期計画を検討する際、クラブの事業と会員の関わりに疑問を持ち、23-34と92-286の二つの声明に関する例会を行い、ロータリーの組織は奉仕活動に専念するには不向きであり、奉仕を学び、会員の自発的な奉仕活動を促す団体と解釈し、「I serve」を強調しました。

本年度一回目の例会で、I serveを実現する為には、クラブは会員や一般の人たちの手本となる奉仕事業に取り組むべきではないかと提案し、皆さんの意見を聞きました。

この提案に正当性はあるか、多少の不安を持ちながら、決議23-34の成立の経過を調べてみました。

100数年の歴史あるロータリー活動の中でかつて、奉仕活動はクラブで行えば良いと主張するグループとクラブの使命は、ロータリアンに「奉仕の心」を形成させることであり、ロータリアン個人個人が奉仕の心を持って職場や地域社会の人々と共に奉仕の実践をすべきと考えるグループに分かれ論争した時期がありました。「奉仕の心の形成」派と「奉仕の実践」派の論争は、個人奉仕と団体奉仕、更に金銭的奉仕の是非にまで発展しました。この論争に終止符が打たれたのは、決議23-34、[綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針]と云うサブタイトルがつけられ、第14回のセントルイス国際大会で決定された事を知りました。最初の決議23-34はその後幾つかの項目について部分的に改正され、タイトルも[社会奉仕に関するロータリーの方針]となり、現在の形になっています。

現在の[決議23-34]を見る限り終止符が打たれたとする項目が見当たりません。そのため初めに作られた内容を調べてた処、納得できる項目が見つかりました。最初の[決議23-34]では、第6項の(7)に、クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンが個々の力を動員するものの方がロータリーの精神によりかなっているといえる。それは、ロータリー・クラブでの綱領に基づく諸活動は、ロータリー・クラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられた、いわば研究室の実験としてのみこれを見るべきである。となっており、この項により論争に終止符が打たれたのであります。

ロータリーの目的(綱領)は 1.知り合いを広める 2.職業の道徳的水準を高め、品位あらしめる 3.ロータリアンが個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理想を適用する 4.ロータリアンが世界的親交により国際理解と親善と平和を推進する、となっておりすべて個人を対

象にしております。

ロータリーは毎週一回開催される例会に集って、お互いが師となり徒となって集団で奉仕の心を学びつつ自己研鑽をします。そして例会場を離れて、それぞれの個人生活、職場、地域社会、国際社会で奉仕活動の实践をすることと教えられてきました。

クラブで行う奉仕活動だけで、ロータリアンとしての役割を果たしていると云えません。

ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成するためには、サンプルがあれば実現し易いことは云うまでもありません。

どの様な内容がサンプルに相応しいか、思いつく条件を書き出して見ましたが、特別な事業を考えなくてもサンプルとして可能であることに気付きました。

1. 社会が本当に必要としている奉仕活動
2. 多数が賛同し、参加できる奉仕活動
3. 効果が期待できる奉仕活動
4. 事業費の協賛が得られる奉仕活動
5. 継続可能な奉仕活動
6. ロータリー活動に相応しいもの
7. その他 (ロータリーの源流を参照)
などのものがあります。

第35回アクターミーティング

新世代奉仕委員会 高林委員長

10月30日(日)ミラノサローネアネックスを会場に第35回アクターミーティングが、諏訪ロータークラブのホストにより開催されました。

テーマは「日本大予測」～私たちができることって何～、未曾有の被害をもたらした東日本大震災、今だからこそ自らが地域社会を動かしていく次代の担い手になりたい。そんな熱い思いを持った2600地区ローターアクターが県内から参加し開催されました。

わずか5人のメンバーでアクターミーティングを企画され運営された諏訪ローターアクトの皆さんに心から敬意を表したいと思います。

